



連携事例 1

R5.8 更新

# 文化遺産を活かした 「館山まるごと博物館」のまちづくり

～ 知れば知るほど面白くなる 安房国再発見！ ～

## ■協働パートナーの種別

|     |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|
| NPO | 企業 | 行政 | 教育 | 地縁 |
|-----|----|----|----|----|



赤山地下壕跡で平和学習ガイドの様子

## ■事業運営団体

NPO 法人安房文化遺産フォーラム

## ■協働パートナー

- ☆青木繁〈海の幸〉誕生の家と記念碑を保存する会
- ☆布良崎神社 ☆安房自然村 ☆大巖院
- ☆福原有信を語り継ぐ会 ☆年金者組合安房支部
- ☆戦争遺跡保存全国ネットワーク ☆千葉城郭研究会
- ☆文化財保存全国協議会 ☆全国里見一族交流会
- ☆NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会
- ☆千葉県歴史教育者協議会
- ☆一般財団法人館山市観光協会
- ☆婦人保護施設かにかた婦人の村
- ☆館山市 ☆館山市教育委員会 他

## ■事業の手法

☆委託・企画立案・共催・事業協力

## ■事業費

☆600万円

### 事業概要

有形無形の文化遺産を保存・活用し、地域全体をまるごと「博物館」に見立て、学習・研究・展示・保全を通じて地域の活性化を図る市民活動です。

先人たちが築いてきた知恵や歴史文化から学べる「平和・交流・共生」の精神をまちづくりの理念として、「戦争遺跡と平和の文化」「八犬伝のふるさと里見のまち」「安房ゆかりの画家文人」など、多様なジャンルを切り口に、スタディツアーガイドや国内外交流、調査研究、ヘリテージまちづくり講座などを実施しています。

### 協働までの経緯

高校教師であったNPO代表の愛沢氏は、安房地域に多く残る戦争遺跡に注目し、平和教育の授業実践を始めたのを契機として、公民館講座や「戦後50年」の資料展などを通じて市民の関心が高まりました。千葉県歴史教育者協議会や戦争遺跡保存全国ネットワークと連携して調査や情報交換を進めるなか、全国各地からスタディツアーが来訪するようになり、市民ガイドが誕生しました。こうした動きを受けて、館山市では戦跡の調査をおこない、館山海軍航空隊赤山地下壕跡を整備・公開しました。翌年には館山市指定史跡となりました。

この間、『南総里見八犬伝』の舞台である里見氏稲村城跡が一部破壊となる市道建設が計画されたため、戦跡とともに城跡も文化財として保存しようと広く呼びかけて、千葉城郭研究会や文化財保存全国協議会、全国里見一族交流会などと連携につながりました。全国的に展開された保存運動は17年を経て、里見氏稲村城跡は南房総市の岡本城跡とともに国指定史跡となりました。

2つの市民運動がきっかけとなって、文化遺産を活かしたまちづくりを目ざすNPO法人が設立されました。これを機に、行政や館山市観光協会、婦人保護施設「かにかた婦人の村」など多様な連携による平和・人権研修など、多分野における協働が生まれました。また、江戸期に建立された大巖院のハンブル「四面石塔」による日韓交流や、明治期に渡米した房総アワビ漁師移民の日米歴史交流、ウガンダ支援交流など、国際的なネットワークとの協働も図っています。

県指定文化財の安房南高校旧第一校舎の保存活用を目ざし、「安房高等女学校木造校舎を愛する会」を立ち上げ、環境整備や県委託の公開事業などをおこなっています。

## ① 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①スタディツアー・文化財ガイド(随時)
- ②ヘリテージまちづくり講座(随時)
- ※上記の他、随時、調査研究・書籍等発行、国内外との交流を行っています。

## ② 主な協働パートナーとの役割分担

- 【NPO】安房文化遺産フォーラム：企画立案、事業運営、コーディネート、人材育成、調査研究等
- 【観光協会】広報・スタディツアーの協力
- 【行政】文化財保護に関する業務・環境整備・広報等
- ※その他協力団体  
学校・大学・調査機関：教育支援、調査研究

## ③ 協働事業によって生まれた成果

- 様々な団体が連携することで、それぞれの知識・専門性などの資源を活用することができました。
- 多くの団体とのつながりが、また新たな連携先を生み、それが新しい視点や手法へつながりました。
- 埋もれていた地域の近現代史が明らかになることで、住民の誇りと連帯感が育まれるとともに、住民が地域課題を認識し、自ら解決しようという意識が向上し、地域の活性化につながりました。
- 地域資源に磨きがかかり、平和学習の地としての認知度も高まりました。そのため市外から多目的のスタディツアーやまちづくり研修・視察が増えました。
- 全国組織との連携により、広域まるごと博物館のまちづくりネットワークが広がっています。

## コラボのコツ!!

- ★地域住民を主役にした事業の発案
- ★事業の理念を共有する
- ★地域内外の緩やかなネットワークを育む
- ★それぞれの主体の特性を活かした協働  
地域資源を活かした住民主体の事業を展開するため、企画にあたっては地域住民の発案を重視しました。  
また、先人の知恵や歴史から学べる“平和・交流・共生”の精神と理念を共有し、協働の信頼を培うとともに、多くの人に関われる緩やかなネットワークを育みながら協働を進めました。  
事業を進めるにあたっては、それぞれの団体の特性を活かし、尊重することが、よいパートナーシップにつながると考えています。

## ④ 今後力を入れていきたいこと

- 調査研究・企画・運営・コーディネーターとしての役割を事業化し、収入の基盤を創出することに力を注ぎます。
- 文化遺産を活かした「館山まるごと博物館」を充実させるため、市や様々な団体との連携をさらに強化するとともに、国や県への協働を働きかけていきます。



## 協働事例プロフィール

【活動開始年】平成8年(法人化：平成16年5月26日) 【活動のPR手法】<https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

【この事業で活用した補助金】

- ①館山信用金庫：“たてしん”ふるさと応援ファンド(地域貢献・後援寄付基金)(H26)
- ②文化庁：文化遺産を活かした地域活性化事業(H25/26)
- ③文化庁：文化遺産を活かした地域振興と地域活性化事業(H23/24)

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 ①南房観光連盟：観光功労表彰(H28)

- ②早稲田学院わせがく高校：表彰状(H28) ③館山市長：教育長感謝状(H26) ④千葉県：ちばコラボ大賞(H26)
- ⑤千葉県文化財保護協会：文化財保護功労者(H24) ⑥ちばコープ：地域かがやき賞(平和部門)(H24)
- ⑦日本都市計画家協会：まちづくり教育部門特別賞(H22) ⑧文化財保存協議会：第10回和島誠一賞(H21)
- ⑨千葉県文化の日功労賞～地域観光振興部門～⑩内閣官房長官賞～まちづくり・くらしづくり活動部門～(H18)

【問い合わせ先】 担当者：池田恵美子 電話番号：0470-22-8271 メールアドレス：awabunka@awa.or.jp